



祥竜寺にて

第2回テーマ：  
六甲山南山麓の歴史  
～歴史探遊と講演～

☆セミナー1：歴史探遊

(10:15～11:55)

六甲ケーブル下駅(土橋)発→大土神社→神戸大学入り口(赤松城跡)→伯母野山下→巖嶋神社→祥竜寺→六甲八幡宮→阪急六甲バス停

〔阪急バス乗車→六甲山自然保護センター着→昼食〕

☆セミナー2：講演

六甲山自然保護センターにて

(13:30～16:10)

実施日：平成15年5月17日(土)



とよだ みのる  
講師：豊田 實さん

プロフィール

大正15年神戸市生まれ  
神戸歴史クラブ理事長  
昭和59年神戸市立福住小学校校長、昭和62年神戸市立総合教育センター主任指導員、平成5～9年日本教育新聞社関西支社兵庫支局長

セミナー1：歴史探遊

(六甲川沿いに下る、2時間弱のコース)

マンションばかりの山麓に別世界を発見

六甲ケーブル下の土橋駅をスタートし、狭く急な車道を下ってしばらくで、大土神社の石垣をくぐって境内に入ります。一瞬で静寂の中に踏み込みタイムスリップしたかのようです。さらに、水車のあった六甲川に下ると、きれいな水の流れに出会って感動しました。

ケーブル下駅から  
都賀川までが六甲川

急峻な六甲川の周辺には、弥生時代の遺跡



六甲川勝雄橋、松蔭女子大学へ

や摩耶合戦の砦跡もあります。学校やマンションが建ち並ぶ場所で、遠い昔に思いを馳せました。

4つの社寺を訪ね廻った

六甲川を下りながら、大土神社、巖嶋神社、祥竜寺、六甲八幡宮を次々訪ねました。いずれも由緒があり、歴史の趣が豊かでした。

豊田さんの名調子に感激

歴史探訪の熟達者である豊田さんの熱のこもったお話しに感銘したり、大笑いしたりの楽しい2時間でした。

お陰様で、12名の参加者は六甲山麓2000年の歴史に魅入られました。

セミナー2：講演

(六甲山自然保護センターで13:30から開講)

冒頭で豊田さんは「午前中に六甲山の南斜面を歩かれて、もう一度誰かと行きたいと思ってもらえれば試みは成功です」と。「これからさらに、六甲山を取り囲む環境および祖先の生活を振り返りながら、素晴らしい六甲山を紹介したいと思います」と述べられ、疲れを見せず熱弁をふるわれました。

◆講演内容：

1. 修験道場の山六甲山
2. 赤松円心則村と摩耶合戦
3. 倭大乱と高地性住居
4. 酒造りと水車業
5. 六甲山開発の恩人(アーサー・ヘスケス・グルーム氏)

締めくくりで「歴史が好きになったのは母親に処女塚に連れて行ってもらった時」と語られた豊田さん。

郷土史をライフワークにされる背景を知り、共感を深めました。



熱弁をふるう豊田さん

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

後援：兵庫県神戸県民局

兵庫県立人と自然の博物館

# テーマ：六甲山南山麓の歴史

**セミナー1：歴史探遊** 六甲川沿いの2時間足らずのコースをご案内します。

**1. 六甲ケーブル  
下駅を出発  
(10:15)**



参加者12名で六甲川の左岸の狭い車道を下っていく。



**2. 石垣をくぐって境内に**  
車道から石垣をくぐり抜けて静寂の境内に入って驚いた。クスの木の葉をふむ音がより一層神社の雰囲気を出す。



**静寂の大土神社①**

水車新田村の鎮守で有名。一帯が市民の森に指定されている。かえる石もある。



**水もきれいな六甲川**

音ヶ平の25輛の水車小屋があった六甲川は河川公園になっている。花崗岩でできた水車の「臼」の話を聞く。



**3. 幻の赤松城跡②を思う**

神戸大学の入り口付近での説明。670年前頃、赤松円心則村が後醍醐天皇を奉じて砦を築き、六波羅軍と戦った。

**急峻な六甲川をのぞく (表紙に写真)**

六甲川を渡り松蔭女子大学へ。深い谷あい、ダム(段差)で川の勢いを弱めている。大きな青サギが飛んだ。



**4. 伯母野山下の道端③**

昔の高地性住居、今は高級住宅地。安藤忠夫設計のマンションを背にして、弥生時代の高地性住居の話聞く。



**5. 由緒ある 鷺嶋神社④**

神戸有数の急な坂道、六甲学院の生徒に混じって下る。規模は小さいが、1180年平清盛創建の格式が見られる。



**6. 臨済宗の祥竜寺⑤**

(表紙にも写真) 鐘楼の楼門と水天宮を備えた清楚な庭園。本尊は地藏菩薩、赤いよだれかけのいわれ。神戸大学生も座禅で利用。「鈴木よね」の胸像。「寺水」を毎日汲む人がいる。

**お地藏さんを訪ねつつ八幡の森へ⑥**

六甲川沿いにバス道を越え、地藏や五輪塔に出会う。摩耶合戦の戦死者を供養したもの。



**7. 森の中の六甲八幡宮⑦**

八幡の合戦の地。灘の酒を江戸に運んだ樽廻船、こま犬の土台に刻まれた寄進者の名。色鮮やかな「厄神さん」をお参りし締めくくり。

**8. 阪急六甲バス停に到着・解散 (11:55)**

2時間足らずの歴史探遊を終了し、いったん解散。



一増山さんと延地さん  
82才の延地さんは「大満足、また参加します」

**順路マップ①～⑦**



参考資料「ヤマケイ関西ブックス六甲山」

## セミナー2: 講演「六甲山南山麓の歴史」



セミナーでの和気あいあいとした様子

### 1. 修験道場の山六甲山

「六甲山には天狗岩がやたらに多い」

六甲山系が造山運動で押し上げられた際にでき風化した岩が多い。岩の上で修行する修験者や行者を村人は天狗と呼んでいた。天狗岩をはじめ修行に使われた岩場が随所にある。唐櫃の四鬼さんは役行者の子孫。千年前から六甲山は素晴らしい修験道場だった。



「自然保護センターの名前を変えよう」八木さん

### 2. 赤松円心則村と摩耶合戦

「六甲山麓に合戦の歴史」

上郡から出た地方豪族の赤松円心が後醍醐天皇を奉じて、六波羅軍と戦った。摩耶山に碑があるが神戸大学内にも砦の跡がある。魚崎の雀の松原、御影の浜の戦い、八幡の林でも合戦した。芦屋には大楠公の碑がある。楠正成が天皇に忠誠を尽くしたのに対し、赤松円心は報償の不满から足利側に寝返り反逆の罪に問われた。後には円心も出家している。

### 3. 倭大乱と高地性住居

「古代の住民の生活もうかがえる」

紀元前500年頃、神武天皇の東征以来、倭大乱でこの辺りも荒れた。松蔭女子大学の辺りから伯母野山下が住みやすかった。男は昼間海に魚介類を捕りに行き、女子供は安全のために高地性住居で生活した。高地で農耕作業をしたのが高地性住居の時代。

### 4. 酒造りと水車業

「江戸時代に灘の樽酒が大人気」

江戸時代に幕府は勝手酒で酒づくりの認可。

昔はどぶろく、御影の「沢の井」の水で酒

を作ったら清酒になった。六甲山の水と米と空気と麴の四つが美味しさの要件、吉野杉の樽も付け加えたい。吉野杉を新宮から筏で新在家まで運んで酒樽を作った。江戸時代にはこも被りの素晴らしい4斗樽が来たと喜ばれた。

私の家は職業で樽作りをしていた。



松島・小笠原・小野さん

### 5. 六甲山開発の恩人（アーサー・ヘスケス・グルーム氏）

「六甲山の開発を再考する」

六甲山の歴史は2千年以上も辿ることができる。明治の居留地の外国人が六甲山を開発したのが始まりではない。親日家で六甲山にゴルフ場や別荘を造ったグルームさんは、開発の恩人である。自分たちの娯楽だけでなく、当時禿げ山であった六甲山に植林することに着手すればさらに良かった。

（質疑応答で、神戸事件や兵庫大仏の建立など、居留地で威張る外国人と日本人との軋轢にも話が及んだ）



「六甲川はきれいな水だ。また行きたい」新木さん

### ★豊田さんのしめくり

「人間味のある歴史を学んで欲しい」

地域に即したいろんな掘り起しをしていくことがこれからの楽しい歴史を学ぶひとつ。歴史が好きになったのは母親に処女塚に連れて行ってもらったとき。聞かされた話に「何でやねん」と疑問を持った。

歴史は自分の生活に直結した時に、もういっぺん行ってみようかと思う、その時から学習が始まる。

（記録協力：中野 一）

#### ◆配布資料：

- ・「六甲山南山麓探遊歴史ウォーク」（ポケットガイド）
- ・「六甲山探遊物語（六甲山の語り部）」

#### ※「神戸歴史クラブ」：

生涯学習の一環として、高齢者の方々の健康と知識の拡充を目的として活動をしています。

連絡先：神戸歴史クラブ 豊田 實  
神戸市須磨区平田町1-1-16 八ヶ代ビル内  
TEL：078-861-4923 FAX：078-861-4923

#### ◆参加者の声・質疑応答・懇談会（提案）：

施設利用や案内チラシについての意見、自然保護センターを無料休憩所としてはどうかと施設周辺の環境をアピールしてはという意見で盛り上がりを見せました。

#### ◆参加者：14名（順不同・敬称略）

豊田 實 松井 光利 小野 律子 新木 里志  
八木 浄 出口 延之 延地 義一 小笠原晋子  
増山 良子 藤井宏一郎 松島 朋子 堂馬 英二  
島崎 渉 中野 一